持続可能な馬事振興を

小林 立栄　議員
（無会派）
一問一答方式

問……教育・福祉・交流人口の拡大・観光振興等に馬資源を活用する為、持続可能な馬事振興、馬事文化の継承が必要である。市民や全国の馬関係者が、遠野で馬に関する技術習得や資格取得できる体制を整備し、人材確保と養成に取り組む考えは。

答……中央馬事団体と連携を図ることで、体制整備の環境づくりに持ち込めるのではないか。幅広く意見を聞きながら進める必要がある。

問……生産者の高齢化、後継者不足の現状のなかで、生産振興対策事業の補助内容の見直しや新たな生産奨励制度の創設等、乗用馬の生産頭数の確保、乗用馬市場の継続に向けた取り組みが必要ではないか。

答……乗用馬生産組合、畜産振興公社と一体となり、意見交換と情報共有に取り組みながら、もう一歩踏み込んだ支援策、環境整備を考えなければならない。新年度から取り組める事業の検討をしている。

問……有識者をアドバイザーとして配置する等、馬事振興の支援体制を充実させる必要があると考えるが。

答……馬事についての情報・知識・ネットワークが必要であり、大事な取り組みである。

馬資源を活用できる体制が大事。持続可能な馬事振興を。

防災減災 安心安全の充実へ

問……※ドローンやオフロードバイクの導入は。

答……民間企業との連携・協定により、ドローンの有効活用を図る体制を整備したい。オフロードバイクも大変有効であるが、導入には慎重な検証が必要である。

問……防災アプリを導入する等、素早く正確な情報伝達の仕組みが必要では。

答……「災害時における情報伝達システム導入検討会議」の提言を具現化する為、遠野テレビや防災アプリ等を利活用する構想の事業化に取り組みたい。

問……※シェイクアウト訓練を実施する考えは。

答……全国一斉に行うJアラート訓練放送に合わせ、市内小中高校が訓練に参加した。一般企業にも参加を呼び掛け効果的に取り組めるよう考える。

※ドローンとは
災害時の物資の輸送や災害現場など危険地域での調査、農薬の散布など農作業全般、工場内での部品の輸送など、様々な用途で活用できる小型無人機。
※シェイクアウト訓練とは
指定された日時に、家庭や職場、外出先などで、地震から身を守る為の安全行動を実践する訓練。誰でも参加できる。

必要な支援の手は届いているか

菊池 美也　議員
（政和クラブ）
一問一答方式

問……厚生労働省は〝ひきこもり〟を「仕事や学校に行かず、かつ家族以外の人との交流をほとんどせずに、6カ月以上続けて自宅にひきこもっている状態」と定義している。
実態について調査をしたことはあるか。

答……極めてデリケートであり、当事者の調査及び全体的な把握は困難である。地域における「将来的に生活困窮に陥る恐れのある若年無業者、あるいは、ひきこもりの方が居るとみられる世帯」についてのヒヤリング調査によると、半数が40歳以上という結果が出た。
本市においても、ひきこもりの高年齢化は潜在している。

問……不登校・ひきこもりを考える講演会が開催された際、「学校に通っている時は支援があった。卒業するとなかなか行政の手が回ってこない。」という親御さんの発言があった。
必要な支援は届いているか。

答……不登校問題との関りから若者課題として捉えられてきた経緯があり、大人の部分は充分な対応ができている状況ではない。
福祉の里、民生児童委員、遠野市社会福祉協議会、在宅介護支援センター、地区センターなどの窓口へご相談をいただきたい。

問……今後〝親亡き後〟に突入する高年齢の当事者が増える。親の支援がなくなった途端に生活は行き詰まる。
地域福祉計画に具体的な記載はないが、高齢化に伴う課題にどう対応していくのか。

答……関係者一同でチームを作っての対応も必要になってくるのではないか。
次期計画にしっかりと位置付け、施策の充実と事業化に取り組む。

市道状況をどのように捉えているか

補修前

補修後

問……市長選挙で市内をくまなく遊説した際、市道の現況を目の当たりにしたと思う。
感じたことは。

答……傷んでいる状況を知るところとなった。
年間に寄せられる補修要望はおよそ400件。通院・通学・買い物などの緊急性・経済性・利用頻度等を数値化し、客観的な判断のもと着実な整備に取り組んでいく。